

## 【投 稿】

## 法獣医学が欧米で成立・発展した背景にキリスト教は影響したのか

浅川 満彦  
(酪農学園大学)

日本の「法獣医学」を歴史的に概観すると、明治期の乳肉（家畜）を対象にした公衆衛生行政の一環として生じ<sup>[1,2]</sup>、今世紀初頭には高度変性した野生動物の死体を対象にした野生動物医学分野としての必要性が喧伝され<sup>[3,4]</sup>、そして最近、欧米発の Veterinary Forensic Medicine (VFM) として法的愛護動物の虐待事案を証明する実学として確立された<sup>[5,6]</sup>。本稿ではVFMが成立・発展した背景を、特に、キリスト教の側面からほんの少し論考を試みた。

まず、本稿でこの宗教に注目したきっかけは、Byrdら<sup>[7]</sup>序文に次のような記述があったからである。すなわち、聖書the Bibleおよびコーランthe Sayings of the Prophet Mohammed（註：いわゆる旧約聖書はイスラム教経典のひとつである点で、両宗教は同根関係にある）では、野鳥ヒナを親鳥から奪取することを禁じており、これがVFM起源のひとつではないかと思われ、さらに13～20世紀にまで続いた動物裁判あるいはそれに類した愚行の強烈な反省が、FVM振興の追い風になったのではないかと記されていた（註：動物裁判がキリスト教教義に直結したできごとであったことは池上<sup>[8]</sup>や三浦<sup>[9]</sup>が詳しい）。

FVMに限らず、キリスト教が今日の世界に大きな影響を与えたのは確かであるし、Byrdら<sup>[7]</sup>の考えに、著者も基本的に賛成している。しかし、もし、そうであるならば、キリスト教信者数が僅か約98万人である日本では、FVMの宗教的な基盤は、実質上、ほぼ欠落している（註：信者数は基督教大学による2017年の調査結果であり<sup>[10]</sup>、これが今日でもあまり変化していないのなら、現在の日本人総人口約1.26億人における比率は0.78%）。また、当然ながら、教会が行った動物裁判のような奇行もこの国には存在しなかった。さらに、そもそも、いわゆる砂漠の宗教であるキリスト教が<sup>[9]</sup>、湿潤なモンスーン気候にある国土に生きる人々の民族（俗）性・精神性・宗教に関する柔軟性・寛容性などに受け入れられるのは、非常に難しい。キリスト教系の教育機関ある酪農学園で

学び、かつそのまま勤務して半世紀近くたち、一時期は英国留学時含めプロテスタント系教会にも通っていた著者は、ごく普通の日本人よりはこの宗教に「馴染み」があると思うが、そのような者ですら、以上のような見方をしている。

したがって、日本の一般の人たちの心の琴線に触れるような形で、FVMを定着（軟着陸）させるためには、「相当な工夫」が必要だと感じている。少なくとも、納税者でもある市井の多くの人々が、生きていくうえで大切なこと（註：宗教とはそのような対象。ただし、キリスト教とは思想に近いという印象。私見であるが）として受け入れられないと、FVMが公の職としての拡大、いや、存続するのも難しいのではないか。おっと、たかが獣医大の一教員である著者ごときが、これ以上言及するのは則を超えそうなので、愚見披瀝は止め、FVMを単なる学問として、あるいは現行法施行の一装置として、淡々と教授することに徹することにしよう。

## 引用文献

- [1] 生駒藤太郎：農業教育獣医学教科書、有隣堂、東京（1903）
- [2] 徳宮和音、浅川満彦：明治期の「法獣医学」について、北獣会誌、66、169-171（2022）
- [3] 浅川満彦：我が国の獣医学にも法医学に相当するような分野が絶対に必要、Zoo and Wildlife News（22）、46-53（2006）
- [4] 浅川満彦：野生動物の法獣医学-もの言わぬ死体の叫び、地人書館、東京（2021）
- [5] 田村 豊：獣医学の新たな分野 法獣医学とは何か？Eduward Media <https://media.eduone.jp/detail/11740/>（2023年3月1日閲覧）（2022）
- [6] 浅川満彦、徳宮和音：野生種を対象にした法獣医学の特質-関連著書刊行を機に再考、酪農大紀、自然、48、印刷中（2023）
- [7] Byrd JH, Norris P, Bradley-Siemens N (eds.): Veterinary Forensic Medicine and Forensic Sciences, CRC Press, USA (2020)
- [8] 池上俊一：動物裁判、講談社、東京（1990）
- [9] 三浦慎悟：動物と人間-関係史の生物学、東京大学出版会、東京（2018）
- [10] 基督教大学国際宣教センター日本宣教リサーチ：JMR調査レポート（2017年度）、千葉県印西市（2018）